



≫高屋良平さん

昭和23年2月生まれ。少年時代から自然と親しみ、大学時代にはワンダーフォーゲル部に所属。高校で倫理の教師をしていたときに、NPO法人エヌエスネットと出会う。現在は主要スタッフとして事務局を担当。自然体験活動推進協議会(CONE)・川に学ぶ体験活動協議会(RAC)トレーナー、日本自然保護協会自然観察指導員、エコツーリズムコーディネーター。趣味は山登り、山スキー。

あなたの思い出の中に、「自然体験」はありますか？
 「子どもの頃に経験する山や川の遊びが、やがて大人になったときの「選択肢」を増やすと高屋良平さんは話します。
 そして、豊かな自然は、私たちのすぐ足もとにあるということも教えてくれます。
 森を歩けば、そこには獣の足跡。
 野を歩けば、澄んだ水にメダカの姿。
 五感で感じることを、そのすべてが「教科書」では学べない大切なことばかりです。

自然には、自分の本当の能力を
 開花させる力があります。

NPO法人エヌエスネット

飛騨美濃自然学校

高屋良平さん Ryohhei TAKAYA



●NPO法人エヌエスネット
 飛騨美濃自然学校
<http://www.ns-net.npo-jp.net/>

「子」

子どもと大人がネイチャースキーをしようと、子どもの方が早く上達します。大人はどうしても慎重になるけれど、子どもは喜んで雪の中に飛び込んでいくからでしょうね。そこで親が『危ないからやめなさい』と言って子どもたちのチャレンジを阻害しなければ、初めは怖がっている子どもいつの間にか歓声を上げながら滑るようになりますよ」

地域の特色を生かした「子ども自然体験」を中心に活動するエヌエスネット。川遊び、森遊び、山遊び、ネイチャースキーなどの自然体験を通して、知識ではなく五感で感じる出会いや発見の場を共有しています。「良さん」こと高屋良平さんは、子どもたちにもこうした経験の場を提供することに力を注いでいます。

「僕が小さい頃は虫が好きで、川や山へ行つては昆虫を捕っていました。そしてそれが、僕の原点。この経験があったからこそ応用してこんな活動をしています。今の親世代はその経験がないこともあり、子どもたちを自然に触れさせるといふ選択肢が生まれにくいわけです。『危ない』『虫は嫌い』という意識は、親からの刷り込みがほとんど。本来、子どもは虫を嫌いません。このままでは、自然体験の土壌もなく、種が蒔かれることもない。人が人らしくあるために、それでは危ういと感じています。だからこそ、親世代が子どもたちと一緒に

なつて体験できることを、どんどん普及していきたくと思っています」

高校教師だった高屋さんは、時代の流れのなかで様相を変えていく教育現場に違和感を抱いていた頃、エヌエスネットと出会ったといいます。

「団体として設立されたのが2001年。その翌年くらいからお手伝いとして参加するようになりました。そこで、『自分が本来にしたかったことはこれだ』『受験のためだけの勉強は教えたくない』と気づいた。5年前倒して早期退職し、本格的に自然体験の指導者として歩き始めて、今に至ります。遊びには、自分の中にある本当の能力を開花するきっかけがたくさんある。本来持っている力を引き出し、本当にやりたいことを見つけるための手伝いをするのが、僕のやるべきことだと感じています」

参加者によっては、心と体にバリアが張られていることも。けれど、自然にはそれを解きほぐす力があります。

「ア」

イスブレイキングという言葉があるように、遊びをすると心も体もリラックスして、本来の力を発揮できるようになります。そう導くのも僕たちの仕事なんです。一方で、慣れた子がリードして新しく参加した子のバリアを解くこともある。とくにネイチャースキーは、初めてでもチャレンジしたくなる遊びの要素がたくさんあって、たとえ失敗しても、チ

ャレンジしたその気持ちに「ナイスチャレンジ」とみんなで拍手を送ります。体育の授業だと成績として評価されますが、ここではそうしたことがない。学校ではできない部分を、僕たちのような団体がフォローする、今はそうした役割分担が必要な時代なのかもしれません」

あたり前にあつた「自然の中の遊び」は、今やどこか「特別」なものに。高屋さんは、自然の中にフィールドを見つけ、体験プログラムと仕組みを開発し、少しでもその機会を増やそうとしています。

40

万人以上が暮らす都市でありながら、豊かな自然がすぐ足もとにある、岐阜市のように恵まれた街は、ほかにどこにもありません。岐阜県全体で言えば、『自然体験』の聖地になる潜在的な素質があることは間違いない。都会からわざわざ訪れる人が多いなか、この場所にくらぶ私たちがその魅力を知らないのはもったいないと思いませんか？動物たちの足跡やキノコ、キイチゴを探す。小川で魚やサワガニを探す。豊かな森は、歩くだけで楽しいものです。昨年からは親子で気軽に参加できる『森あそび』を企画していますので、そうしたものに参加していただくのもいい。金華山でも百ヶヶ峰でも達目洞でも、身近な場所を歩いていただくのもいい。この春、親子皆さんで、自然の素晴らしさ、面白さにぜひ触れてください」